

1 はじめに

第1節 背景と目的

本研究の目的は以下の2点である。

- ①一般市民を対象にした移住意思決定に関するアンケートをとることにより、どのような要因が移住意思に関係するかを調査する。
- ②移住意思決定に関係する要因の調査をもとに、どのような改善を果たせば、周防大島町の移住者が増えるのかを考察する。

ふるさと回帰支援センターの調査結果によると、1都3県（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）に在住の20～74才の男女15000人にアンケートを行ったところ、「転居・移住に関心がある」、または「現在の生活圏での生活を続けることに違和感を持つことがある」と回答したのは610万人（推計）となった。そのうち、移住先として地方を希望している人は309万人（推計）であった¹⁾。（表1-1参照）

また、内閣府の農山漁村に関する世論調査では、居住地域の認識について「都市地域」、「どちらかという都市地域」と答えた者（1036人）に、農山漁村地域に移住してみたいという願望があるか調査したところ、「ある」とする者の割合が26.6%（「ある」5.7%+「どちらかという」とある20.9%）、「ない」とする者の割合が72.6%（「どちらかという」とない39.1%+「ない」33.5%）となっている²⁾。（表1-2参照）

本研究では、一般市民を対象に移住意思決定に関するアンケートを行い移住する際に必要な施設やサービスまたは不安について調査を行う。その結果をもとに周防大島町への移住者をどのようにしたら増やすことができるかについて考察する。

注

- 1) ふるさと回帰支援センター 「地方移住に関する調査」（2024年1月19日閲覧）
[〈https://www.furusatokaiki.net/topics/press_release/p46850/〉](https://www.furusatokaiki.net/topics/press_release/p46850/)
- 2) 内閣府 「農山漁村に関する世論調査」（2024年1月19日閲覧）
[〈https://survey.gov-online.go.jp/r03/r03-nousan/〉](https://survey.gov-online.go.jp/r03/r03-nousan/)

表 1-1 ふるさと回帰支援センター調査結果 (2021)

	1都3県に在住の20~74歳の男女	転居・移住に関心あり／違和感あり	移住先が地方
調査結果	n=15000	24.20%	12.30%
対象人口推計	25,160,855	6,097,314	3,086,398

出所：ふるさと回帰支援センター「地方移住に関する調査 (2021)」

より筆者作成

表 1-2 内閣府「農山漁村に関する世論調査 (2021)」

	該当者数	ある (小計)	ある	どちらかというところ	ない (小計)	どちらかというところ	ない	無回答
	人	%	%	%	%	%	%	%
総数	1,036	26.6	5.7	20.9	72.6	39.1	33.5	0.8

出所：内閣府「農山漁村に関する世論調査 (2021)」

より筆者作成

第2節 農山漁村への移住について

農山漁村とは

農山漁村とは、主に農業を生業とする人々が日常生活を営む「農村」、同じ意味で林業の「山村」、漁業の「漁村」を合わせた用語である。

取り組み例

農山漁村への移住を促進するための取り組みとして、長崎県の事例を挙げる。長崎県の農山村地域では、人口の減少と高齢化が急速に進行し、集落機能の低下、さらには集落の消滅が懸念されている。このような状況の中、農山村集落を次世代に継承し、維持活性化していくためには、「産業の担い手」としての専業農家だけでなく、田園回帰の高まりにも対応し、若者をはじめ、幅広い世代を呼び込み、兼業農家や非農家も含めた多様な住民を「地域の担い手」として確保する取り組みを、集落自らが進めていく必要がある。

この課題を解決するために、主に3つの施策を行っている。まず1つ目は、農山村集落が有する警官・伝統・文化やライフスタイル等の魅力を発掘して磨きをかけ、生活関連情報も併せて発信するとともに、移住希望者の相談窓口（移住相談役）を設置する。次に2つ目は、農拍の活用によるお試し移住、農地付空き家の確保、市町や民間企業と連携した通信環境の整備など、集落ぐるみで移住希望者の受入形態を整備する。最後に3つ目は、移住希望者が半農半X[※]等のライフスタイルに合わせて移住できるようサポートし、若者をはじめ地域の担い手となる多様な住民の移住・定住を進めるといような取り組みを行っている。

第3節 分析方法

本論文で使用する分析方法を簡単に説明する。

①単純集計

これはカテゴリーデータの比率を求めるものであり、単純集計を行うことによりサンプル集団の特色や傾向が把握できる。

②クロス集計

単純集計により、サンプル集団の特色や傾向が把握できたことで、回答者の属性と移住意思がどのように関連しているかをクロス集計で分析した。

第4節 先行研究

農山漁村への移住に関する先行研究は、筒井一伸、佐久間康富、嵩和雄（2015）らによる「都市から農山村への移住と地域再生－移住者の起業・継業の視点から－」、谷垣雅之（2017）による「農村地域への移住動機・心理特性に関する考察－北海道清里町・小清水町を事例として－」が挙げられる。

筒井（2015）らは、農山村における移住者のなりわいづくりに焦点を当て、福島県二本松市東和地区の移住者受け入れ態勢の事例や沖縄県国頭村の暮らしの拠点として長い歴史を持つ共同店を移住者が継業するといった事例を挙げている。

谷垣（2017）は、北海道清里町及び小清水町の移住者に対して、移住動機等についてのアンケート調査を行っている。移住を決定する際の環境的要素として、回答のほとんどが「自然が豊か」「空気・水がきれい」など豊かな自然資源を挙げている。

しかし、離島である山口県周防大島町に焦点を当てた研究や調査は少ない。

2 調査

第1節 調査概要

モニター制のアンケート調査会社マクロミルに依頼し、Web アンケート調査を行った。調査は2023年〇月〇日から2023年〇月〇日の期間に実施し、520サンプルを回収した。調査対象者は近畿地方から福岡までの西日本の一般市民、設問形式は単一回答と複数回答として調査した。調査内容は、以下の回答者属性を問う設問と移住に関する設問、周防大島町に関する設問からなる。なお、回答者属性に関する設問は、マクロミルでの基本調査事項である。

調査内容

・回答者属性

- (1) 性別
- (2) 年齢
- (3) 居住地
- (4) 結婚の有無
- (5) 子供の有無
- (6) 世帯年収
- (7) 個人年収
- (8) 職業
- (9) 学生区分（前問で「学生」と回答した人のみ）

・移住に関する設問

- (1) 人生で1度は農山漁村に移住してみたいかどうか
- (2) 移住するなら都会か地方か
- (3) 最も移住したい年代
- (4) 移住等を検討する地域に必要な施設・サービス（上位3つ回答）
- (5) 移住を決めるのに最も有効だと思う情報源
- (6) 移住を検討する際の不安な点（上位3つ回答）

・周防大島町に関する設問

- (1) 周防大島町を知っているか
- (2) 移住先の候補に周防大島町が入るか
- (3) 周防大島町のどのようなところに魅力を感じたか（前問で「入る」と回答した人のみ、複数回答可）

第2節 調査結果

1) 回答者属性

本調査では、回答者の性別において、均等割付を行ったため、性別はほぼ同数となった。

(表 2-1 参照)

年代について、「60代以上」が20% (104人) で最も多く、次に、「25～29才」が14.2% (74人) で多くなった。(表 2-2 参照)

居住地について、「大阪府」が37.3% (194人) で最も多く、次に、「兵庫県」が23.1% (120人) であった。(表 2-3 参照)

結婚の有無について、約6割が結婚している。(表 2-4 参照)

子供の有無について、回答者の約55%に子供がいる。(表 2-5 参照)

世帯年収では、最も多い回答は、「400～600万円未満」で20.0% (104人)、次に「200～400万円未満」で17.1% (89人) であった。また、「わからない」と答えた人が14.0% (73人) であった。この設問は必須回答ではなかったため、無回答もいた。(表 2-6 参照)

個人年収では、最も多い回答は、「200万円未満」で32.7% (170人)、次に「200～400万円未満」で18.8% (98人) であった。また、「わからない」という回答が9.2% (48人) であった。この設問は必須回答ではなかったため、無回答もいた。(表 2-7 参照)

職業では、「パート・アルバイト」が最も多く16.3% (85人) となり、次に多い回答が「会社員 (その他)」で16.0% (83人) であった。(表 2-8 参照)

また、職業で「学生」と回答した人の学生区分は、「大学生」が約8割であった。(表 2-9 参照)

表 2-1 回答者の属性

	n	%
全体	(520)	
1 男性	260	50.0
2 女性	260	50.0

表 2-2 回答者の年代

	n	%
全体	(520)	
1 20才～24才	30	5.8
2 25才～29才	74	14.2
3 30才～34才	44	8.5
4 35才～39才	60	11.5
5 40才～44才	56	10.8
6 45才～49才	48	9.2
7 50才～54才	60	11.5
8 55才～59才	44	8.5
9 60才以上	104	20.0

表 2-3 回答者の居住地

	n	%
全体	(520)	
1 大阪府	194	37.3
2 兵庫県	120	23.1
3 岡山県	30	5.8
4 広島県	57	11.0
5 山口県	22	4.2
6 福岡県	97	18.7

表 2-4 回答者の結婚の有無

	n	%
全体	(520)	
1 未婚	215	41.3
2 既婚	305	58.7

出所：調査結果をもとに筆者作成

表 2-5 回答者の子供の有無

	n	%
全体	(520)	
1 子供なし	236	45.4
2 子供あり	284	54.6

表 2-6 回答者の世帯年収

	n	%
全体	(520)	
1 200万未満	52	10.0
2 200～400万未満	89	17.1
3 400～600万未満	104	20.0
4 600～800万未満	54	10.4
5 800～1000万未満	30	5.8
6 1000～1200万未満	19	3.7
7 1200～1500万未満	9	1.7
8 1500～2000万未満	6	1.2
9 2000万円以上	2	0.4
10 わからない	73	14.0
無回答	82	15.8

表 2-7 回答者の個人年収

	n	%
全体	(520)	
1 200万未満	170	32.7
2 200～400万未満	98	18.8
3 400～600万未満	79	15.2
4 600～800万未満	27	5.2
5 800～1000万未満	11	2.1
6 1000～1200万未満	4	0.8
7 1200～1500万未満	1	0.2
8 1500～2000万未満	0	0.0
9 2000万円以上	1	0.2
10 わからない	48	9.2
無回答	81	15.6

出所：調査結果をもとに筆者作成

表 2-8 回答者の職業

	n	%
全体	(520)	
1 公務員	17	3.3
2 経営者・役員	10	1.9
3 会社員(事務系)	73	14.0
4 会社員(技術系)	55	10.6
5 会社員(その他)	83	16.0
6 自営業	13	2.5
7 自由業	6	1.2
8 専業主婦(主夫)	79	15.2
9 パート・アルバイト	85	16.3
10 学生	19	3.7
11 その他	18	3.5
12 無職	62	11.9

表 2-9 回答者の属性区分（職業で学生と答えた人のみ）

	n	%
全体	(19)	
1 小学生	0	0.0
2 中学生	0	0.0
3 高校生・高専生	2	10.5
4 専門学校生	0	0.0
5 短大生	0	0.0
6 大学生	16	84.2
7 大学院生	1	5.3
8 その他学生	0	0.0

出所：調査結果をもとに筆者作成

2) 移住に関する設問

移住に関する各設問の単純集計結果を見ていく。

まず、人生で一度は、農山漁村に移住してみたいかという設問について、最も多いのは、「当てはまらない」で41.2% (214人)であった。次に多いのは、「あまり当てはまらない」で21.0% (109人)であった。「当てはまる」回答したのは、5.2% (27人)、「少し当てはまる」と回答した人は、16.9% (88人)、「どちらでもない」と回答した人は、15.8% (82人)であった。(表2-10参照)

移住するなら都会か地方かという設問について、最も多いのは、「都会」で53.1% (276人)であった。「地方」と回答したのは46.9% (244人)であった。(表2-11参照)

最も移住したい年代について、最も多いのは、「60代」で34.0% (177人)、次に多いのは、「50代」で22.3% (116人)であった。そして、「70代以降」と回答した人は、16.0% (83人)で「50代」、「60代」、「70代以降」を合わせて、72% (376人)となっており中年から高齢にかけて約4分の3を占める。(表2-12参照)

移住等を検討する際に必要な施設・サービスについて、最も多いのは、「スーパーなど日常の買い物の場」93.3% (485人)であった。次に多いのは、「病院・歯科医院など」62.7% (326人)、3番目に多いのは、「総合病院」で45.6% (237人)となった。(表2-13参照)

移住を決めるのに最も有効な情報源について、最も多いのは、「自治体やその関連団体のホームページ」で24.6% (128人)、次に多いのは、「インターネットの関連情報」で21.5% (112人)となった。「当てはまるものはない」を除いて3番目に多かったのは、「テレビやラジオの報道・番組など」で10.2% (53人)であった。「当てはまるものはない」と回答した人が多かった理由としてUターンで地元に戻る人がいるなどが考えられる。(表2-14参照)

移住を検討する際の不安な点について、最も多いのは、「買い物など日常生活の利便性に不安」で62.1% (323人)、次に多いのは、「公共交通の利便性に不安」で42.1% (219人)であった。3番目に多いのは、「老後の暮らしや医療・福祉環境に不安」で40.6% (211人)であった。また、その他にも「働き口が見つかるか、うまく起業等ができるか不安」で36.2% (188人)や「移住先の人間関係がうまくいくか不安」で29.6% (154人)などの回答が多かった。(表2-15参照)

表 2-10 人生で一度は農山漁村に移住してみたいか

		n	%
	全体	(520)	
1	当てはまる	27	5.2
2	少し当てはまる	88	16.9
3	どちらでもない	82	15.8
4	あまり当てはまらない	109	21.0
5	当てはまらない	214	41.2

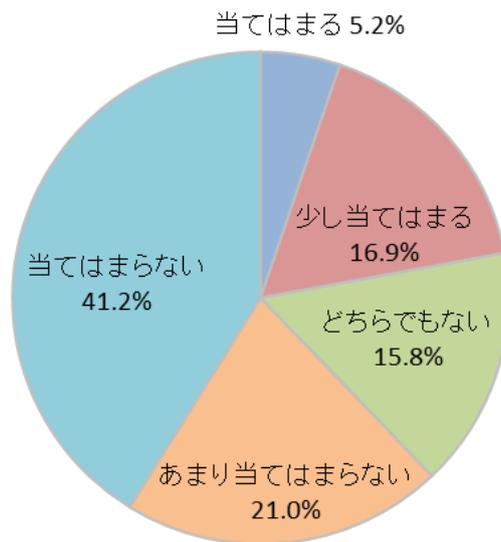


図 2-1 人生で一度は農山漁村に移住してみたいか

出所：調査結果をもとに筆者作成

表 2-11 移住するなら都会か地方か

	n	%
全体	(520)	
1 都会	276	53.1
2 地方	244	46.9

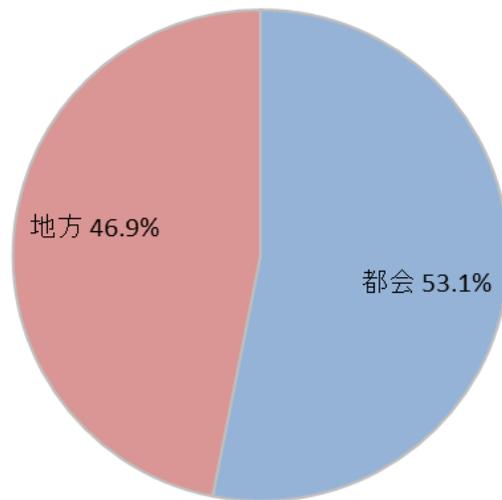


図 2-2 移住するなら都会か地方か

出所：調査結果をもとに筆者作成

表 2-12 最も移住したい年代

		n	%
	全体	(520)	
1	20代	36	6.9
2	30代	51	9.8
3	40代	57	11.0
4	50代	116	22.3
5	60代	177	34.0
6	70代以降	83	16.0

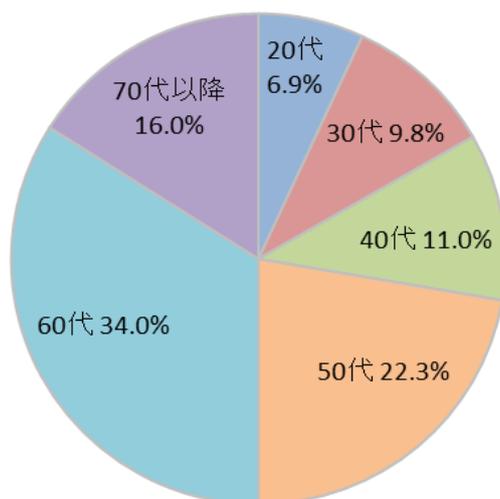


図 2-3 最も移住したい年代

出所：調査結果をもとに筆者作成

表 2-13 移住等を検討する際に必要な施設・サービス

複数回答		n	%
全体		(520)	
1	スーパーなど、日常の買い物の場	485	93.3
2	デパート、専門店など	83	16.0
3	病院、歯科医院など	326	62.7
4	総合病院	237	45.6
5	保育所、幼稚園など	25	4.8
6	小学校などの教育施設	63	12.1
7	図書館、文化会館など	66	12.7
8	介護老人保護施設など	74	14.2
9	その他【 】	10	1.9
10	特にない	24	4.6

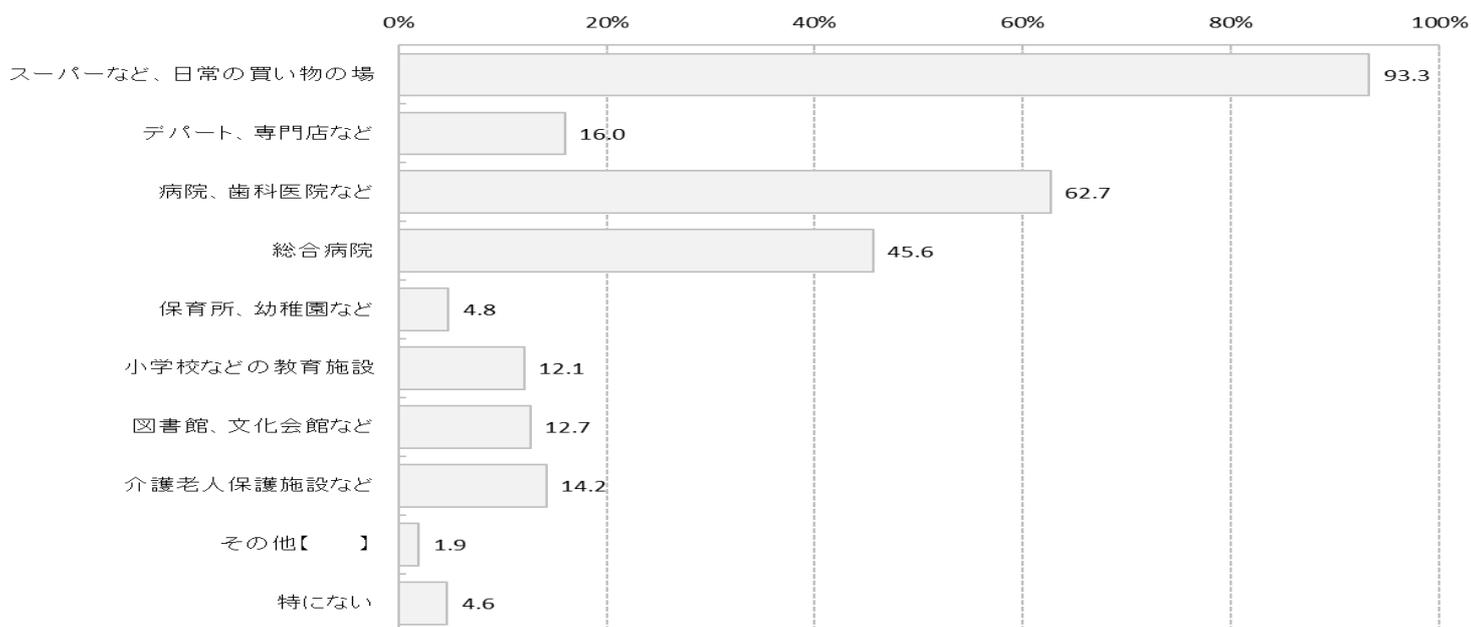


図 2-4 移住等を検討する際に必要な施設・サービス

出所：調査結果をもとに筆者作成

表 2-14 移住を決めるのに最も有効な情報源

	n	%
全体	(520)	
1 新聞や雑誌の報道・特集記事など	20	3.8
2 テレビやラジオの報道・番組など	53	10.2
3 インターネットの関連情報	112	21.5
4 Instagram、X（旧Twitter）などのSNS	31	6.0
5 自治体やその関連団体のホームページ	128	24.6
6 観光に関する情報誌、ガイドブック	11	2.1
7 自治体等が行うイベント	36	6.9
8 都道府県の観光案内所やアンテナショップなど	25	4.8
9 口コミ	33	6.3
10 その他【 】	2	0.4
11 当てはまるものはない	69	13.3

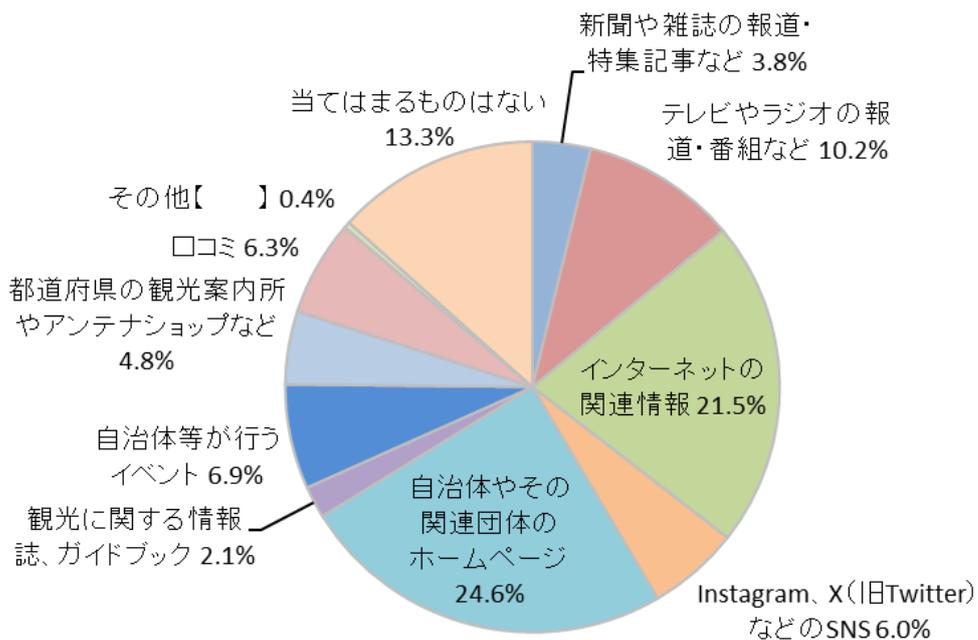


図 2-5 移住を決めるのに最も有効な情報源

出所：調査結果をもとに筆者作成

表 2-15 移住を検討する際の不安な点

複数回答	n	%
全体	(520)	
1 働き口が見つかるか、うまく起業等ができるか不安	188	36.2
2 買い物など日常生活の利便性に不安	323	62.1
3 公共交通の利便性に不安	219	42.1
4 子供の教育環境や子育て環境に不安	54	10.4
5 老後の暮らしや医療・福祉環境に不安	211	40.6
6 移住先の人間関係がうまくいくか不安	154	29.6
7 暮らしにあった居住が見つかるか不安	83	16.0
8 その他【 】	1	0.2
9 特に不安はない	35	6.7

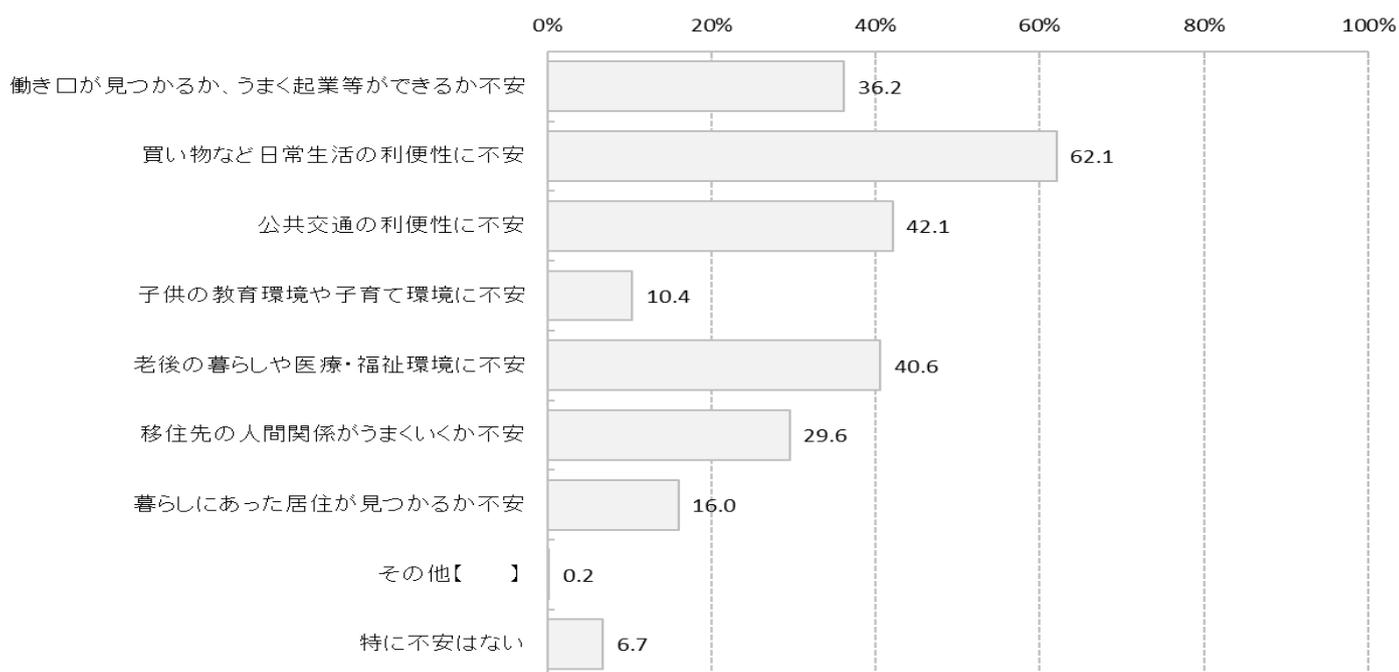


図 2-6 移住を検討する際の不安な点

出所：調査結果をもとに筆者作成

3) 周防大島町に関する設問

周防大島町に関する各設問の単純集計を見ていく。

まず、周防大島町を知っているかという設問について、最も多いのは、「全く知らない」で52.9% (275人)、次に多いのは、「地名だけ知っている」で21.7% (113人)であった。また、「行ったことがある」が13.7% (71人)で「行ったことはないが、テレビなどで見たり聞いたりしたことがある」が11.7% (61人)であった。(表2-16参照)

次に、移住先の候補に周防大島町が入るかという設問について、「入る」と回答した人は、22.3% (116人)で、「入らない」と回答した人は、77.7% (404人)であった。(表2-17参照)

周防大島町が移住先の候補に入ると回答した人が感じる周防大島町の魅力で最も多かったのは、「自然の豊かさ」で88.8% (103人)であった。次に多かったのは、「街の雰囲気」で31.0% (36人)、「衣食住の安定」で26.7% (31人)となった。(表2-18参照)

表 2-16 周防大島町を知っているか

		n	%
全体		(520)	
1	行ったことがある	71	13.7
2	行ったことはないが、テレビなどで見たり聞いたりしたことがある	61	11.7
3	地名だけ知っている	113	21.7
4	全く知らない	275	52.9

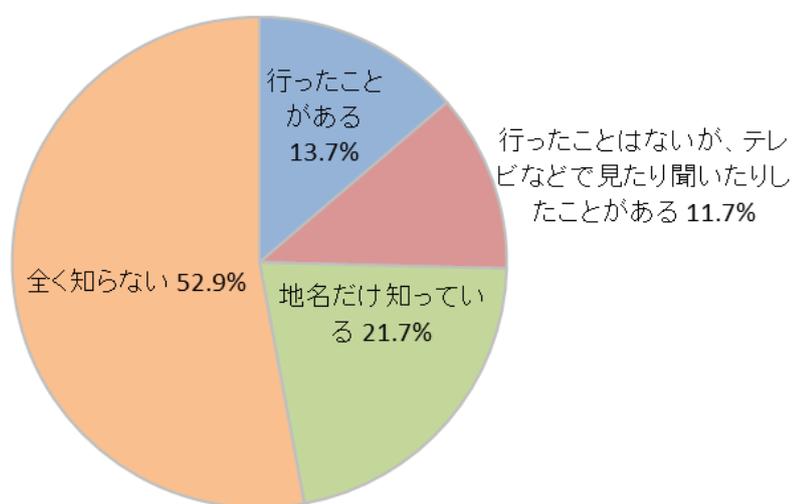


図 2-7 周防大島町を知っているか

出所：調査結果をもとに筆者作成

表 2-17 移住先の候補に周防大島町が入るか

	n	%
全体	(520)	
1 入る	116	22.3
2 入らない	404	77.7

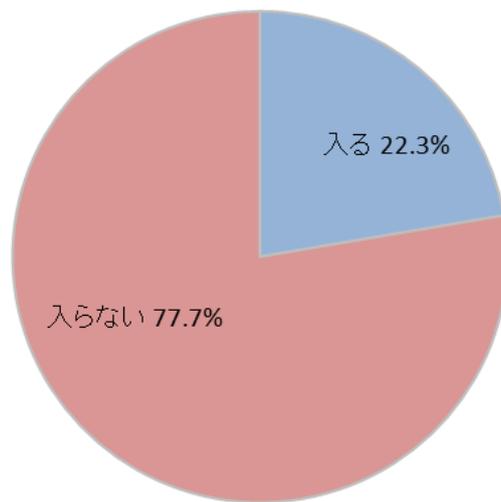


図 2-8 移住先の候補に周防大島町が入るか

出所：調査結果をもとに筆者作成

表 2-18 周防大島町の魅力

複数回答		n	%
全体		(116)	
1	自然の豊かさ	103	88.8
2	歴史、伝統	11	9.5
3	街の雰囲気	36	31.0
4	地域産業	9	7.8
5	住民の人柄	21	18.1
6	衣食住の安定	31	26.7
7	農業	7	6.0
8	6次産業化	7	6.0
9	その他【 】	3	2.6

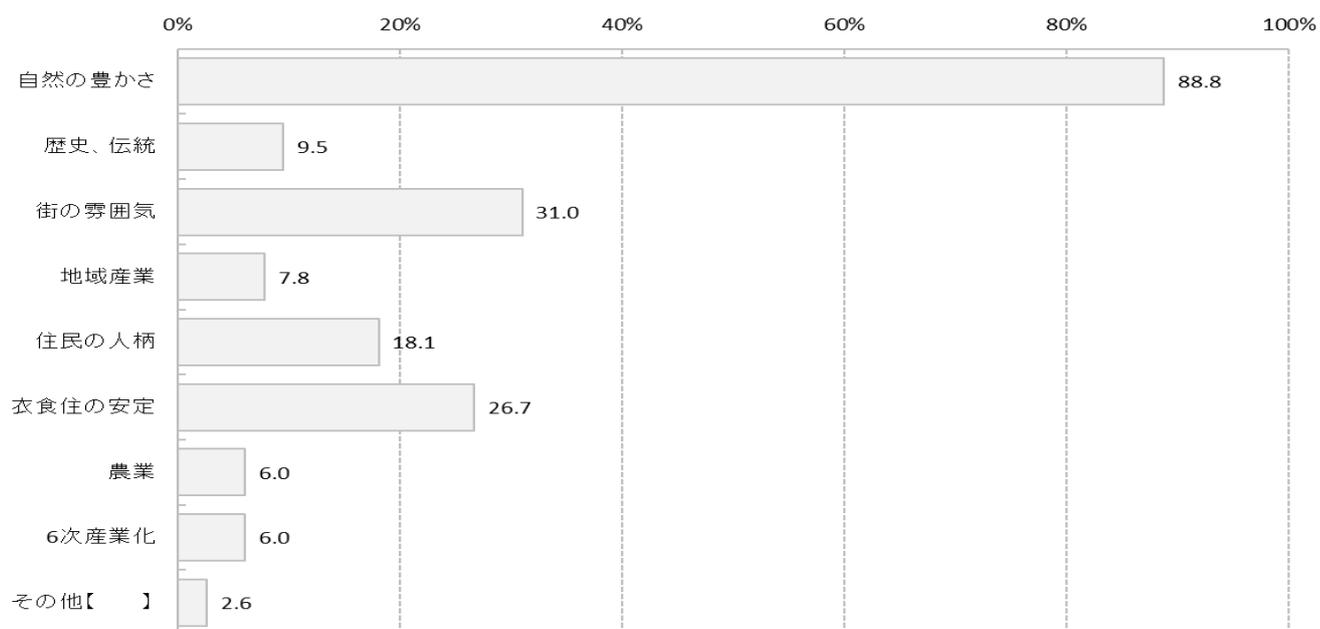


図 2-9 周防大島町の魅力

出所：調査結果をもとに筆者作成

3 分析

第1節 性別と移住意思のクロス集計

各設問のクロス集計について見ていく。

性別と人生で一度は農山漁村に移住したいかという設問についてのクロス集計を見ると、「当てはまる」と回答した人は、男性で6.9%（18人）、女性で3.4%（9人）で男性の方が多くなった。「少し当てはまる」と回答した人も男性が20.7%（54人）、女性が13.1%（34人）となり男性の方が多くなった。次に、「あまり当てはまらない」と回答した人は、男性で21.9%（57人）、女性で20.0%（52人）となった。「当てはまらない」と回答した人は、男性で32.3%（84人）、女性で46.2%（130人）となり女性の方が多くなった。（表3-1、図3-1参照）

表3-1 性別×農山漁村への移住意思

		全体	当てはまる	少し当てはまる	どちらでもない	あまり当てはまらない	当てはまらない
全体		(520)	27	88	82	109	214
性別	男性	(260)	18	54	47	57	84
	女性	(260)	9	34	35	52	130

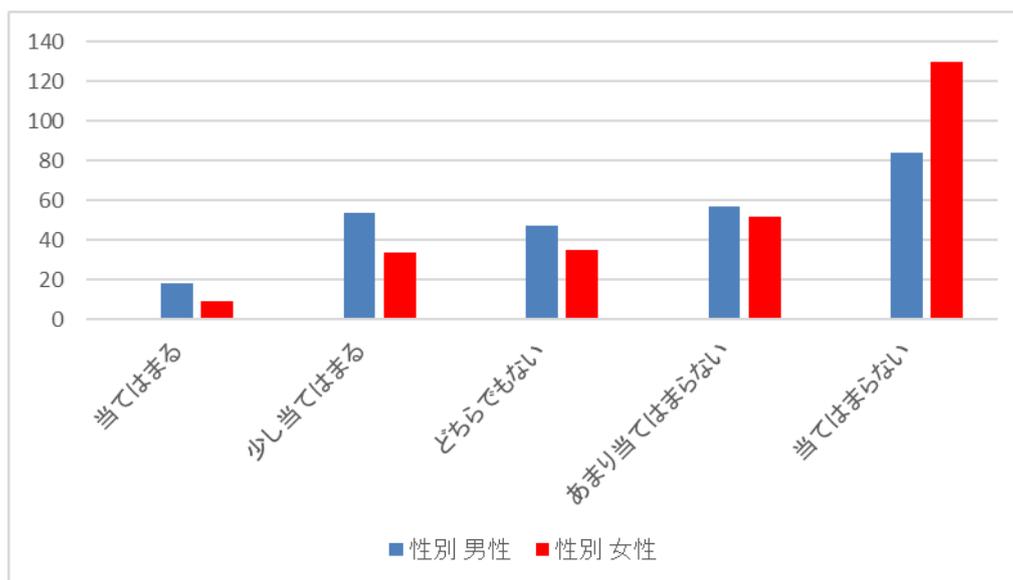


図3-1 性別×農山漁村への移住意思

出所：調査結果をもとに筆者作成

第2節 年齢と移住意思のクロス集計

年齢と人生で一度は農山漁村に移住したいかという設問についてクロス集計を見ると、「当てはまる」と回答した人のうち最も割合が多かったのが、20～29歳の方々に11.5%（12人）、次に多かったのが、30～39歳の方々に6.7%（7人）であった。「少し当てはまる」と回答した人のうち最も多かったのは、20～29歳の方々と30～39歳の方々とともに21.2%（22人）であった。また、「当てはまらない」と回答した人のうち最も多かったのが、60歳以上の方々に52.9%（55人）、次に多かったのが、40～49歳の方々に45.2%（47人）となった。50～59歳の方々も「当てはまらない」と回答する人が多く44.2%（46人）であった。（表3-2、図3-2参照）

表3-2 年齢×農山漁村への移住意思

	当てはまる	少し当てはまる	どちらでもない	あまり当てはまらない	当てはまらない
20～29歳	12	22	16	25	29
30～39歳	7	22	15	23	37
40～49歳	4	20	13	20	47
50～59歳	4	11	25	18	46
60歳以上	0	13	13	23	55

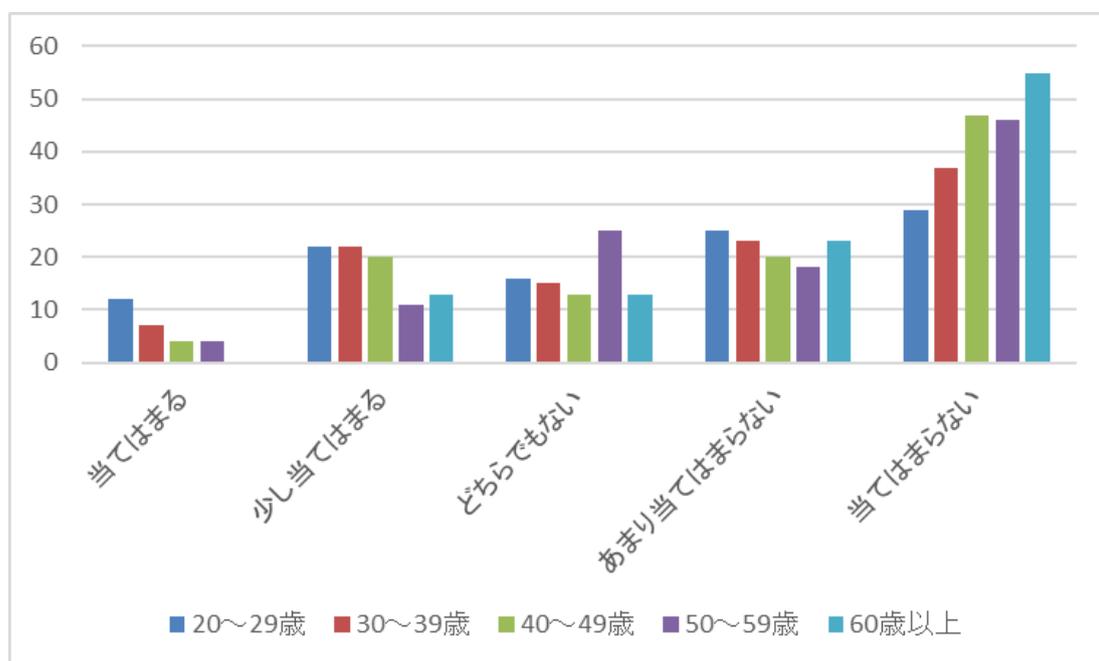


図3-2 年齢×農山漁村への移住意思

出所；調査結果をもとに筆者作成

第3節 移住意思と移住意思決定に影響を及ぼすものについてのクロス集計

ここでは3つの影響を及ぼすと思われる要因と移住意思のクロス集計を行う。最終的に、周防大島町への移住者をどのような改善をすれば増やすことができるかについて考察するため、移住に否定的でないと考えられる移住意思のアンケートで「当てはまる」、「少し当てはまる」、「どちらでもない」と回答した人（197人）に焦点を当ててクロス集計を行った。

まず、移住等を検討する際に必要な施設・サービスと人生で一度は農山漁村へ移住してみたいかという設問についてのクロス集計を見る。このクロス集計を見ると、「スーパーなどの日常の買い物の場」と回答した人が92.4%（182人）であった。次に、多かったのが「病院、歯科医院など」と回答した人が56.3%（111人）、「総合病院」と回答した人が45.2%（89人）であった。（表3-3、図3-3参照）

表3-3 移住に否定的でない人が移住を検討する際に必要な施設・サービス

	全体	スーパーなど、日常の買い物の場	デパート、専門店など	病院、歯科医院など	総合病院	保育所、幼稚園など	小学校などの教育施設	図書館、文化会館など	介護老人保護施設など	その他	特にない
全体	197	182	31	111	89	9	29	23	21	4	10
当てはまる	27	26	5	15	14	1	4	2	1	0	0
少し当てはまる	88	83	19	57	35	5	16	11	12	2	1
どちらでもない	82	73	7	39	40	3	9	10	8	2	9

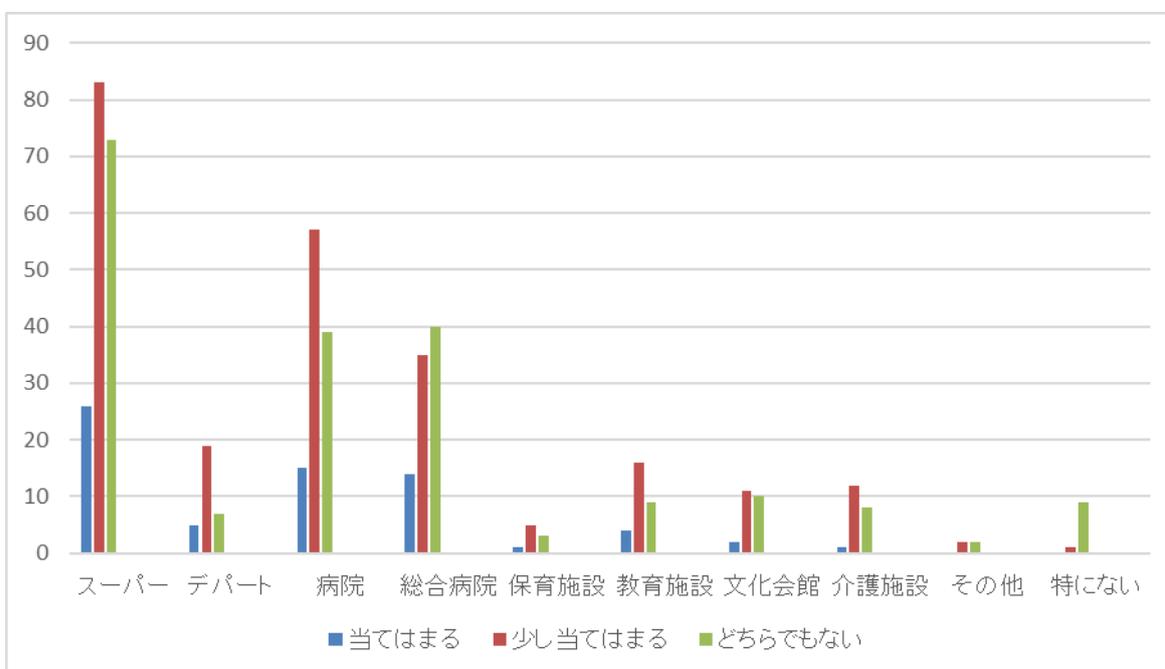


図3-3 移住に否定的でない人が移住を検討する際に必要な施設・サービス

出所：調査結果をもとに筆者作成

次に、移住を検討する際の不安な点と人生で一度は農山漁村へ移住してみたいかという設問についてのクロス集計を見る。最も多かった回答は、「買い物など日常生活の利便性に不安」で54.8%（108人）であった。次に多かったのが「働き口が見つかるか、うまく起業等ができるか不安」と回答した人が43.7%（86人）、「公共交通の利便性に不安」と回答した人が42.1%（83人）であった。（表3-4、図3-4参照）

表3-4 移住に否定的でない人が移住を検討する際に感じる不安な点

	全体	働き口が見つかるか、うまく起業等ができるか不安	買い物など日常生活の利便性に不安	公共交通の利便性に不安	子供の教育環境や子育て環境に不安	老後の暮らしや医療・福祉環境に不安	移住先の人間関係がうまくいか不安	暮らしにあった居住が見つかるか不安	その他	特に不安はない
全体	198	86	108	83	28	71	51	30	0	14
当てはまる	27	13	17	8	8	10	2	2	0	1
少し当てはまる	88	40	48	39	14	38	29	18	0	1
どちらでもない	82	33	43	36	6	23	20	10	0	12

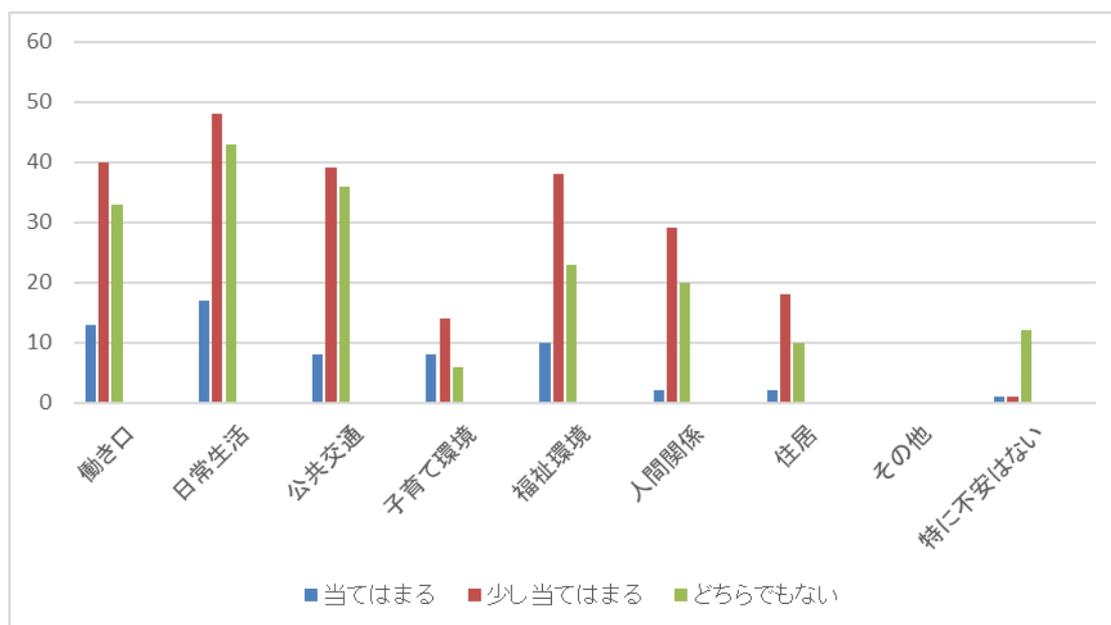


図3-4 移住に否定的でない人が移住を検討する際に感じる不安な点

最後に、移住を決めるのに最も有効な情報源と人生で一度は農山漁村へ移住してみたいかという設問についてのクロス集計を見る。最も多かった回答は、インターネット関連の情報で24.9%（49人）であった。次に、自治体やその関連団体のホームページで17.8%（35人）、テレビやラジオの報道・番組などで13.2%（26人）となった。（表3-5、図3-5参照）

表3-5 移住に否定的でない人が移住を決める際に有効だと思う情報源

	全体	新聞や雑誌の報道・特集記事など	テレビやラジオの報道・番組など	インターネットの関連情報	Instagram、X（旧Twitter）などのSNS	自治体やその関連団体のホームページ	観光に関する情報誌、ガイドブック	自治体等が行うイベント	都道府県の観光案内所やアンテナショップなど	口コミ	その他	当てはまるものはない
全体	197	11	26	49	14	35	4	19	11	11	1	17
当てはまる	22	1	1	7	4	7	2	1	2	1	1	0
少し当てはまる	78	7	11	18	5	21	1	12	5	6	0	2
どちらでもない	82	3	14	24	5	7	1	6	4	4	0	15

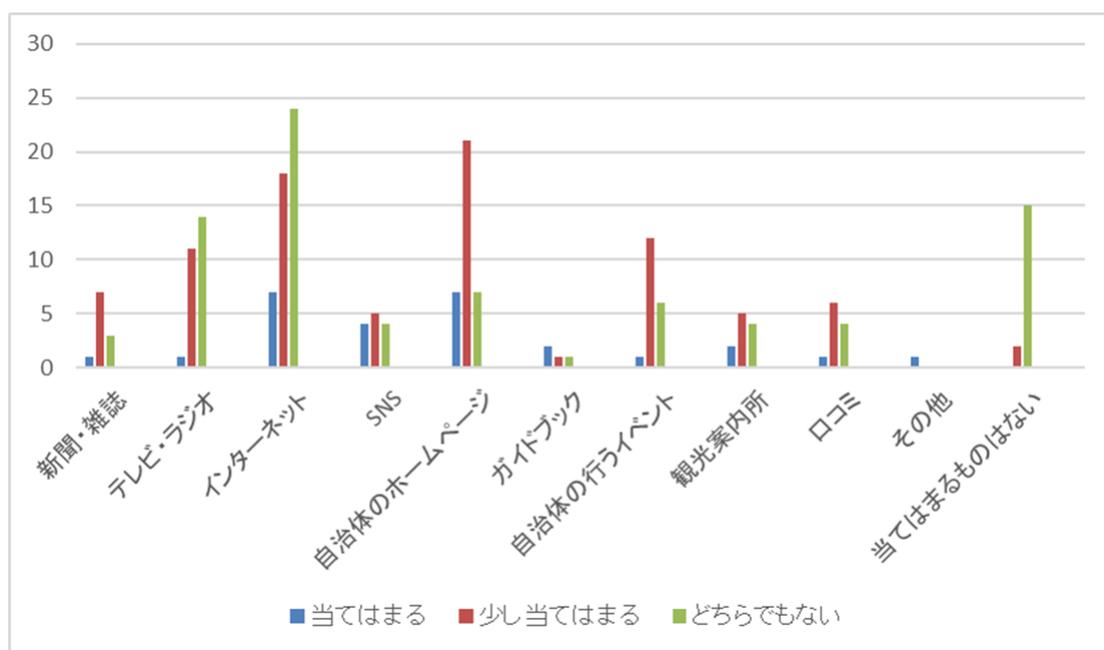


図3-5 移住に否定的でない人が移住を決める際に有効だと思う情報源

4 まとめ

第1節 考察

これまでの調査結果、分析結果より、今後、周防大島町への移住者を増加させていくための課題を考察していく。

第1に、移住者が生活するうえでなければならない日常の買い物の場、特に夜遅くまで営業しているスーパーを設置することである。

分析結果より、移住者が最も必要だと考えているのは、「日用品などを購入するスーパー」であると考えられる。しかし、現在周防大島町にあるスーパーのほとんどが夜遅くても20時には閉店してしまっている。このような状況において都会からの移住者の中にはとても不便と感じる方が多くいると考えられる。また、このような状況を見て移住先の候補から周防大島町を除外する方もいるかもしれない。よって、夜遅くまで営業しているスーパーの設置を行うべきであると考察した。

第2に、移住者が働き口や起業をする際の支援を行うことである。

分析結果より移住者が不安に感じていることに「移住してからの働き口や起業をうまくできるか」が挙げられた。周防大島町の移住に関する情報をまとめたホームページには島内での求人情報がのせられており働き口を探す際の支援はしっかりと行われている。また、就農をする際にも営農塾などを運営することによって新規就農者の方が農業を学ぶ機会も設けられている。周防大島町は「起業家の多い島」と呼ばれている。よってこれらの支援に加えて、起業をする際に起業経験者からのアドバイスをもらえる場などを作ることにより、周防大島町で起業したいと考えている人達の不安を払拭でき、移住者を増やすことができると考察した。

第3に、移住等を検討している人に対する住みやすさや働き口など情報提供を積極的に実施し、分析結果で出たような不安を払拭できるような内容にしていくことである。

分析結果より移住する際に最も有効な情報源は「インターネットを用いて手に入る情報」であるということがわかった。周防大島町のホームページには、移住希望者専用のサイトがある。このサイトでは、移住者が不安に思っていることのある程度を解決することができる。しかし、分析結果にもあった、公共交通機関の利便性に関する情報が載っていない。そして現在の周防大島町の状況としては、公共交通機関が便利ではない。よって、公共交通機関を整備し、その情報をホームページに載せ、移住を検討している人の不安を払拭する必要があると考察できる。

第2節 結論

20歳以上の一般市民の約9割の人が移住先に必要な施設・サービスに「日用品の買い物の場」と挙げた。移住するにあたって不安に感じていることは約4割の人が「働き口が見つかるか、うまく起業できるか不安」と挙げた。このようなことが移住意思決定に影響を与えていると考えられる。

周防大島町への移住者を増加させるには、周防大島町の魅力である「自然」を維持しつつ、さらに移住者が住みやすい環境に整えていく取り組みを行うことと考察できる。特に周防大島町は島であるため公共交通機関が発達していない。また、周防大島町外からの往来における公共交通機関が不明瞭である。このようなことを考慮して、公共交通機関の発達とわかりやすさが今後の移住者数に関わっていくと考えられる。

第3節 今後の課題

今回の調査や考察を行った際に見つかった課題は、3つある。

1つ目は、調査地区を拡大するということである。今回の調査では5府県（大阪府、兵庫県、岡山県、広島県、山口県、福岡県）の主に西日本に焦点を当てた。今後の調査では、東日本においても調査することにより全国でどのような傾向があるのかを調査したい。

2つ目は、年齢の設問を細かくするということである。今回の調査では年齢を問う設問において5歳おきに問を設けた。その年齢を問う設問を細かくすることにより、移住意思と年齢がどのように関わっているのかを詳しく調査したい。

3つ目は、移住に否定的な人の移住意思はどのような要因で変化するのかについても考察するということである。今回の研究における考察では、移住に否定的でない人の移住意思はどのような要因で変化するのかについてまとめた。今後の研究では移住に否定的な人の移住意思は、どのような要因で変化するのかについてまとめたい。

よって、調査地区の拡大、年齢の設問を細かくする、移住に否定的な人の移住意思はどのような要因で変化するのかについても考察するを研究における今後の課題とする。

【参考文献】

- 1) 総務省 「過疎地域への移住者に対するアンケート調査」(2024年1月30日閲覧)
<https://www.soumu.go.jp/main_content/000529976.pdf>
- 2) ふるさと回帰支援センター 「地方移住に関する調査」(2024年1月19日閲覧)
<https://www.furusatokaiki.net/topics/press_release/p46850/>
- 3) 内閣府 「農山漁村に関する世論調査」(2024年1月19日閲覧)
<<https://survey.gov-online.go.jp/r03/r03-nousan/>>
- 4) 長崎県 「Ⅱ-1 農山村集落に人を呼び込む仕組みづくりー長崎県」
(2024年1月19日閲覧)
<<https://www.pref.nagasaki.jp/shared/uploads/2021/04/1619438956-2.pdf>>
- 5) 筒井一伸、佐久間康富、嵩和雄 「都市から農山村への移住と地域再生」
(2024年1月29日閲覧)
<https://www.jstage.jst.go.jp/article/arp/34/1/34_45/_pdf>
- 6) 谷垣雅之 「農村地域への移住動機・心理特性に関する考察」
(2024年1月29日閲覧)
<https://www.jstage.jst.go.jp/article/arp/36/1/36_86/_pdf>
- 7) 周防大島町 「周防大島移住ナビ」(2024年1月29日閲覧)
<<https://teiju-suo-oshima.com/>>

【謝辞】

本研究を進めるにあたり、ご指導・ご協力を賜りました皆様に心から感謝申し上げます。

主指導教員である山口大学大学院創成科学研究科農学系学域 准教授 種市豊先生には、テーマの設定から、論文作成の細部に至るまでご指導・ご教授を賜りました。心より感謝申し上げます。

また、名城大学農学部生物資源学科 准教授 平児慎太郎先生には、移住に関する知識やアンケートの設計等、ご指導・ご教授を賜りました。深く感謝申し上げます。

そして、プレテストにご協力いただいた、農業市場学・農業経済学の受講者の皆様、北九州市立大学の学生の皆様、御礼申し上げます

最後に、本論文の作成にあたり、種市研究室の皆様には、多大なご協力をいただきました。心から感謝の意と御礼を申し上げます。

2023年2月11日

田原雄介

【本調査 調査票】

F1～F9 の設問はマクロミルの基本調査項目である。

F1 あなたの性別をお選びください。(1つだけ)【必須入力】

1. 男性
2. 女性

F2 あなたの年齢をお答えください。【必須入力】

F3 あなたのお住まいをお答えください。(1つだけ)【必須入力】

1. 北海道
2. 青森県
3. 岩手県
4. 宮城県
5. 秋田県
6. 山形県
7. 福島県
8. 茨城県
9. 栃木県
10. 群馬県
11. 埼玉県
12. 千葉県
13. 東京都
14. 神奈川県
15. 新潟県
16. 富山県
17. 石川県
18. 福井県
19. 山梨県
20. 長野県
21. 岐阜県
22. 静岡県
23. 愛知県
24. 三重県
25. 滋賀県
26. 京都府
27. 大阪府
28. 兵庫県
29. 奈良県
30. 和歌山県
31. 鳥取県
32. 島根県
33. 岡山県
34. 広島県
35. 山口県
36. 徳島県
37. 香川県
38. 愛媛県
39. 高知県
40. 福岡県
41. 佐賀県
42. 長崎県
43. 熊本県
44. 大分県
45. 宮崎県
46. 鹿児島県
47. 沖縄県

F4 あなたは、現在ご結婚されていますか。【必須入力】

1. 未婚(離別・死別を含む)
2. 既婚

F5 あなたには、現在お子様がいらっしゃいますか。【必須入力】

1. 子供がいない
2. 子供がいる

F6 あなたの世帯年収(税込)を教えてください。(ひとつだけ)

1. 200万円未満
2. 200～400万円未満
3. 400～600万円未満
4. 600～800万円未満
5. 800～1000万円未満
6. 1000～1200万円未満
7. 1200～1500万円未満
8. 1500～2000万円未満
9. 2000万円以上
10. わからない

F7 あなたの個人年収(税込)をお答えください。(ひとつだけ)

1. 200万円未満
2. 200～400万円未満
3. 400～600万円未満
4. 600～800万円未満
5. 800～1000万円未満
6. 1000～1200万円未満
7. 1200～1500万円未満
8. 1500～2000万円未満
9. 2000万円以上
10. わからない

F8 あなたの現在のご職業をお答えください。【必須入力】

1. 公務員
2. 経営者・役員
3. 会社員（事務系）
4. 会社員（技術系）
5. 会社員（その他）
6. 自営業
7. 自由業
8. 専業主婦（主夫）
9. パート・アルバイト
10. 学生
11. その他
12. 無色

F9 現在のご自身の学生区分をお答えください。【必須入力】

1. 小学生
2. 中学生
3. 高校生・高専生
4. 専門学校生
5. 短大生
6. 大学生
7. 大学院生
8. その他学生

Q1 周防大島町を知っていますか。

最も当てはまるものをお知らせください。

※周防大島町に住んでいる方は、選択肢1「行ったことがある」をお選びください。

1. 行ったことがある
2. 行ったことはないが、テレビなどで見たり聞いたりしたことがある
3. 地名だけ知っている
4. 全く知らない

Q2 移住について以下の文章を読んで当てはまるものをお答えください。

【人生で一度は、農山漁村に移住してみたいと思う。】

1. 当てはまる
2. 少し当てはまる
3. どちらでもない
4. あまり当てはまらない
5. 当てはまらない

Q3 移住するなら都会か地方のどちらかお知らせください。

1. 都会
2. 地方

Q4 最も移住したい年代をお知らせください。(1つ)

※移住予定がない方も、移住すると想定してお答えください。(以降も同様です)

1. 20代
2. 30代
3. 40代
4. 50代
5. 60代
6. 70代以降

Q5 移住等を検討する地域に必要な施設・サービスをお知らせください。(3つまで)

(上位3つを答えてください)

1. スーパーなど、日常の買い物の場
2. デパート、専門店
3. 病院、歯科医院など
4. 総合病院
5. 保育所、幼稚園など
6. 小学校などの教育施設
7. 図書館、文化会館など
8. 介護老人保護施設など
9. その他【 】
10. 特にない

Q6 移住を決めるのに最も有効だと思う情報源をお知らせください。(1つ)

1. 新聞や雑誌の報道・特集記事など
2. テレビやラジオの報道・番組など
3. インターネットの関連情報
4. Instagram、X (旧 Twitter) などの SNS
5. 自治体やその関連団体のホームページ
6. 観光に関する情報誌、ガイドブック
7. 自治体等が行うイベント
8. 都道府県の観光案内所やアンテナショップなど
9. 口コミ
10. その他【 】
11. 当てはまるものはない

Q7 移住を検討する際の不安な点をお知らせください。(3つまで)

(上位3つを答えてください)

1. 働き口が見つかるか、うまく起業等ができるか不安
2. 買い物など日常生活の利便性に不安
3. 公共交通の利便性に不安
4. 子供の教育環境や子育て環境に不安
5. 老後の暮らしや医療・福祉環境に不安
6. 移住先の間人間関係がうまくいくか不安
7. 暮らしにあった居住が見つかるか不安
8. その他【 】
9. 特に不安はない

Q8 周防大島町が現在移住先として人気ですが、移住先の候補に周防大島町が入るかお知らせください。

※現在、周防大島町にお住みの方も、移住先と想定して候補に入るかどうかお答えください。

1. 入る
2. 入らない

Q8 周防大島町が現在移住先として人気ですが、移住先の候補に周防大島町が入るかお知らせください。

※現在、周防大島町にお住みの方も、移住先と想定して候補に入るかどうかお答えください。

1. 自然の豊かさ
2. 歴史、伝統
3. 街の雰囲気
4. 地域産業
5. 住民の人柄
6. 衣食住の安定
7. 農業
8. 6次産業化
9. その他【 】

【プレテスト 調査票】

周防大島町と移住についてのアンケート

ご多忙のところ恐れ入りますがご協力お願いいたします。

当てはまるものに○をつけてください。

Q 回答者について

1. 性別

A,男 B,女

2. 居住地

A,山口県 B,福岡県 C,広島県 D,岡山県 E,兵庫県 F,大阪府 G,その他

3. 周防大島町を知っているか

A,行ったことがある B,テレビなどで見たり聞いたりしたことがある

C,地名だけ知っている D,全く知らない

Q 移住について

1. 人生で一度は、農山漁村に移住してみたいと思う。

A,当てはまる B,少し当てはまる C,あまり当てはまらない D,当てはまらない

2. 移住するなら都会か地方のどちらか

A,都会 B,地方

3. 最も移住したい時期（1つ）

A,20代 B,30代 C,40代 D,50代 E,60代 F,70代以降

4. 移住等を検討する地域に必要な施設・サービス（3つ）

（上位3つを答えてください）

A,スーパーなど、日常の買い物の場

B,デパート、専門店など

C,病院、歯科医院など

D,総合病院

E,保育所、幼稚園など

F,小学校などの教育施設

G,図書館、文化会館など

H,介護老人保護施設など

I,その他

J,特にない

5. 移住を決めるのに最も有効だと思う情報源（1つ）

- A,新聞や雑誌の報道・特集記事など B,テレビやラジオの報道・番組など
C,インターネットの関連情報 D,Instagram、X（旧 Twitter）などの
SNS
E,自治体やその関連団体のホームページ F,観光に関する情報誌、ガイドブック
G,自治体等が行うイベント
H,都道府県の観光案内所やアンテナショップなど
I,口コミ J,その他
K,当てはまるものはない

6. 移住を検討する際の不安（3つ）

（上位3つを答えてください）

- A,働き口が見つかるか、うまく起業等ができるか不安
B,買い物など日常生活の利便性に不安
C,公共交通の利便性に不安
D,子供の教育環境や子育て環境に不安
E,老後の暮らしや医療・福祉環境に不安
F,移住先の人間関係がうまくいくか不安
G,暮らしにあった居住が見つかるか不安
H,その他
I,特に不安はない

7. 周防大島町が現在移住先として人気だが移住先の候補に周防大島町が入るか。

- A,入る B,入らない

7. で A と答えた人に質問です。

8. 周防大島町のどのようなところに魅力を感じたか（複数回答可）

- A,自然の豊かさ B,歴史、伝統 C,街の雰囲気 D,地域産業 E,住民の人柄
F,衣食住の安定 G,農業 I,6次産業化 H,その他

【プレテスト 単純集計】

	性別	
	男	女
合計(人)	104	140
割合(%)	42.6	57.4

	居住地						
	山口県	福岡県	広島県	岡山県	兵庫県	大阪府	その他
合計(人)	126	94	6	1	1	2	14
割合(%)	51.6	38.5	2.4	0.4	0.4	0.8	5.7

	周防大島町を知っているか			
	行ったことがある	テレビなどで見たり聞いたりしたことがある	地名だけ知っている	全く知らない
合計(人)	59	39	65	81
割合(%)	24.1	15.9	26.6	33.2

	人生で1度は農山漁村へ移住してみたいと思う			
	当てはまる	少し当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
合計(人)	28	69	65	82
割合(%)	11.5	28.3	26.6	33.6

	移住先が都会か地方か	
	都会	地方
合計(人)	108	136
割合(%)	44.3	55.7

	最も移住したい時期					
	20代	30代	40代	50代	60代	70代以降
合計(人)	118	38	24	32	28	4
割合(%)	48.3	15.6	9.8	13.1	11.5	1.6

	移住等を検討する地域に必要な施設・サービス (3つ)									
	スーパーなど、日常の買い物の場	デパート、専門店など	病院、歯科医院など	総合病院	保育所、幼稚園など	小学校などの教育施設	図書館、文化会館など	介護老人保護施設など	その他	特にない
合計(人)	232	111	155	55	22	81	18	13	24	13

移住を決めるのに最も有効な情報源											
	新聞や雑誌の報道・特集記事など	テレビやラジオの報道・番組など	インターネットの関連情報	Instagram、X（旧Twitter）などのSNS	自治体やその関連団体のホームページ	観光に関する情報誌、ガイドブック	自治体等が行うイベント	都道府県の観光案内所やアンテナショップなど	口コミ	その他	当てはまるものはない
合計（人）	14	21	95	18	42	6	9	3	21	8	7
割合（％）	5.7	8.6	38.9	7.4	17.2	2.5	3.7	1.2	8.6	3.3	2.9

移住を検討する際の不安な点（3つ）									
	働き口が見つかるか、うまく起業等ができるか不安	買い物など日常生活の利便性に不安	公共交通の利便性に不安	子供の教育環境や子育て環境に不安	老後の暮らしや医療・福祉環境に不安	移住先の人間関係がうまくいくか不安	暮らしにあった居住が見つかるか不安	その他	特に不安はない
合計（人）	118	158	155	54	59	95	66	3	13

	周防大島町が移住先の候補に入るか	
	入る	入らない
合計（人）	30	214
割合（％）	12.3	87.7

周防大島町の魅力									
	自然の豊かさ	歴史、伝統	街の雰囲気	地域産業	住民の人柄	衣食住の安定	農業	6次産業化	その他
合計（人）	24	1	10	2	1	4	3	1	2

出所：調査結果をもとに筆者作成